

**第5回 ASEAN+3（中国、日本、韓国）
エネルギー大臣会合共同声明
バンコク（タイ王国）、2008年8月7日**

<緒言>

1. 第5回ASEAN+3（中国、日本、韓国）エネルギー大臣会合（AMEM+3）は、2008年8月7日にタイ王国バンコクで開催された。この会合の議長はタイ王国のプーンピロム大臣、副議長は吉川副大臣（日）、孫勤（ソン・キン）副局長（中）及び李載勲（イ・ジェフン）第二次官（韓）が共同して務めた。会合には、3カ国に加えASEAN加盟国のエネルギー大臣が出席した。

2. 我々は、エネルギーを巡る各国、各地域及び国際的な進展に関する見解を交換し、域内協力イニシアティブの進捗を確認した。各国の連携と協力を強化するため、第11回ASEAN+3首脳会議（07年11月20日、シンガポール）で採択されたASEAN+3の10カ年行動計画を再度確認した。10カ年行動計画（2007-2017）セクションCでは、エネルギー、環境、気候変動及び持続的成長に関して11分野の協力関係構築・強化を述べている。我々は、本計画を達成する方法を探索した。

<域内における最近のエネルギー情勢>

3. 全世界におけるエネルギー分野は、経済面、政治面、環境面、行動様式の各面について増大する課題に直面している。世界経済は以前に比べ活況にあるとはいえ、高騰を続ける油価は、経済成長や長期的なエネルギー安全保障に対して大きな脅威である。一方で域内のエネルギー需要は、短期的にも長期的にも大きく成長すると見込みであり、温室効果ガス排出の抑制・気候変動の軽減と、必要量の確保を両立させる必要がある。

4. 直面する課題解決に向け、我々は、一層の協力と統合の必要性を確認した。また、エネルギーに関して持続的将来を構築するため、適切な行動の必要性を強調した。

＜密接で効果的な域内協力、統合の推進＞

5. 我々は、活動中のSOME+3エネルギー協力の進捗及び成果を高く評価する。増大する課題の中にあつて、我々は5つのフォーラム、①エネルギー安全保障、②石油市場、③石油備蓄、④天然ガス、⑤再生可能エネルギー及び省エネルギーで構成されるSOME+3エネルギー協力の一層の強化に合意した。

【エネルギー安全保障】

6. 我々は、エネルギー安全保障を確立するためには、対応の規模と行動の迅速性が重要であることを確認した。予想される需要の増大に応じるためには、社会的、環境的側面に配慮しつつ、安定した信頼できる供給減を構築するため、協働した努力が必要である。エネルギー安全保障と持続的成長に向け、総合的な施策を迅速に進めていく
7. エネルギー安全保障確立に向けた政策立案の指針とするため、域内エネルギー需要見通しの策定を高く評価した。2008年中に刊行予定の、エネルギー経済研究所（IEEJ、日）とACEによる「ASEAN+3エネルギーアウトルック第2版」に言及した。合わせて、エネルギー安全保障フォーラムで発表、議論された各種検討を歓迎した。
8. 我々は、域内のエネルギーミックスに占める石炭の重要性を考慮し、エネルギー安全保障フォーラムの一環として実施した石炭関連協力の進捗を高く評価した。また2008年8月18-21日にベトナムで開催される第6回ASEAN石炭フォーラム協議会と、国際クリーンコール会議に言及し、各国に参加を要請した。

9. 我々は、緊急時対応力の強化策として再生が進むエネルギーコミュニケーションシステムの状況や、ACEが進める油価及びエネルギーデータ収集に言及した。

【石油市場】

10. 我々は、異常な高油価に対する深刻な懸念を表明した。世界の経済成長に対する重大なリスクであり、産油国、消費国双方の利害に反するものである。エネルギー政策を所管する全ての関係者の協力が必要と、強調した。石油市場対話、生産国・消費国間の協力強化を要請した。また、上流、下流双方における投資増額による適切な余剰生産能力確保の必要性や、JODIの機能拡張による市場透明性の確保を求めた。IEA、IEFS、OPEC及びIMFなどの国際機関に対して、油価高騰に対する実需面、資金面双方の要因分析を要請した。各国の関係機関に対して、商品先物市場の監視と必要な措置を要請した。
11. 我々は、省エネルギー促進や代替エネルギー導入を通じた緊急時対応力強化の必要性を確認した。これに関して、従来型エネルギーに対する価格補助金の段階的削減が望ましいことを理解した。国際価格にリンクしたエネルギー価格を通じて、市場に対して省エネルギー促進や代替エネルギー投資増額に向けたメッセージを発信することが重要である。数カ国における、この趣旨に添った最近の政策を高く評価し、今後ともこの動きが継続されるよう期待する。

【石油備蓄】

12. 供給途絶リスクと変動の大きな石油市場に対応すべく、我々は、石油備蓄イニシアティブの強化をコミットした。以下の4つの原則からなる、備蓄ロードマップに対する行動計画を採択した。(i) 自主的で拘束力なく、(ii) 互恵的で、(iii) 2国間・多国間協力の尊重し、(iv) 長期的視点に立った段階的

な進展。今後さらに、備蓄ロードマップに関する詳細コンセプトの立案、検討はASEAN+3各国間で議論を続ける。

13. 我々は、ASEANサイドのフィリピン・エネルギー省と、経済産業省（日）、知識経済部（韓）、国家能源局（中）が共同して推進する、石油備蓄ロードマップ策定の取組を歓迎した。共同事務局を務めるACEとJOGMECに対して謝意を表明した。本ワーキンググループの第1回会合を2008年11月後半にフィリピンで開催し、その進捗を第8回SOME+3及び第6回エネルギー大臣会合に報告するよう要請した。

【NRE（再生可能エネ）とEE&C（省エネ）】

14. 長期化する油価高騰にもかかわらず、当初予測に比べた需要削減が進まない現状を踏まえ、我々は、需要サイドにおける一層の合理的対応の必要性を認識した。効率的な省エネルギー技術とベストプラクティスの普及や省エネルギー促進政策の採用が、生産性や経済成長を犠牲にすることなく、石油需要の抑制に効果的であることを確認した。対話、ネットワーク構築及び情報共有による省エネルギー協力推進に合意した。
15. 我々は、再生可能エネルギー開発に関する進捗に謝意を表明した。拡大する需給ギャップを考慮すると、再生可能エネルギー拡大を加速し、このギャップを補填する必要がある。革新的な再生可能エネルギー技術を実験室規模から商業ベースへ拡大するための投資奨励、技術移転の促進や、開発・生産に関する局所的なスキルを水平展開していくことに合意した。
16. 我々は、キャパビルを通じて、温室効果ガスの削減と持続的成長に向けた、CDMプロジェクトを普及するため韓国の提案を歓迎した。ACEに対して、具体的行動に向け提案内容の精査を指示した。

【天然ガス】

17. 我々は、域内で天然ガスの重要性が増大していることを認識した。ガスの輸出国、輸入国双方にとも、開放された市場から相互にメリットが得られることに言及した。2国間や域内各国の協調・協力の強化を通じてガス貿易を拡大し、国内・国際市場にガスを十分に供給することに合意した。
18. 我々は、中国が主催し2008年秋に予定される第5回天然ガスフォーラム、第4回天然ガスビジネス対話を歓迎し、これら2つの会合が新たな投資やパートナーシップにつながることを期待する。

【原子力】

19. 首脳によって採択され、原子力の平和利用を含むASEAN+3行動計画（2007-2017）を考慮し、増大する将来のエネルギー需要に対応するため、安全性、セキュリティ及び不拡散を担保しつつ、原子力の平和利用強力に合意した。
20. 我々は、タイのイニシアティブで2008年6月16-17日に、この地域で原子力安全に関して初めて開催されたフォーラムを歓迎した。このフォーラムの議事録を確認し、各国に対しこの種のフォーラムを定例的に開催するよう要請した。
21. 我々は、ASEAN+3行動計画（2007-2017）を考慮した、原子力の平和利用に関する韓国の提案を歓迎した。韓国の人材教育に関するキャパビルプログラムについて、ACIEが精査するよう要請した。

<その他>

22. 我々は、将来に向けたSOME+3の活動成果を高く評価し、来年の第6回ASEAN+3エネルギー大臣会合（ミャンマー、2009）で報告されるアウトプットを期待する。